

## 平成21年度「市政懇話会」第2回「環境先進都市」部会議事概要

日 時：平成21年11月17日（火）15：15～16：10

場 所：鳥取市役所本庁舎4階第3会議室

出席者：【委員】下石義忠部会長、谷尾洋介副部会長、池長綾子委員、池原良行委員、手島秀光委員、三谷信子委員、矢追浩太委員、吉村あけみ委員

【鳥取市】岸本環境下水道部次長、牧環境政策課長、学校教育課三橋主任

【事務局】枅谷

### 《意見交換》

委員)

- ・前回いただいた第8次鳥取市総合計画の中には、持続可能な循環型社会であるとか廃棄物の削減であるとか、そういったものが説明してある。
- ・廃棄物の削減や分別、焼却施設なども大変な話だと思う。また、地球の温暖化についても、前政権では温室効果ガス90年比6%削減を目標としながら、実際には約9%増加している。ましてや新政権下では90年比25%の削減を目指している状況である。
- ・そんな中で、市民ぐるみの環境教育や環境学習の推進など、市としてもやっておられるが、大人の半分は会社勤めしている。そうであれば会社の中で、それぞれやらってもらうことも重要である。
- ・大きな会社であれば自前でISO14001なども取得してやっていくことも可能だが、中小企業ではなかなかISO14001は負担が大きい。
- ・第8次鳥取市総合計画では、ISO14001やTEASなどの環境管理システムに取り組む主体について、平成16年度の66件から平成22年度では220件の目標を掲げている。その中で、平成19年度上期の実績は106件となっている。
- ・この106件については市が独自に開拓したものか。

環境政策課長)

- ・市が独自に出向いて行って説明会を開いてとかというようなことまではしていない。

委員)

- ・鳥取市として目標として掲げている以上は、独自に検討し、開拓し、また支援していかねばなかなか進まないのではないか。
- ・県がTEASへのサポーター制度であるとか、認証取得の際の補助金の制度などを設けているが、市としてもそういった方策がとれないものか。
- ・10万円や20万円の認証取得費もなかなか出せないという事業者の方もいる。
- ・やりたくてもできないといった状況があるのなら、TEAS以外の中小企業向け環境マネジメントシステムや一般家庭用の取組など、地域に対する支援ができないものかと思っている。

部会長)

- ・今の話は、企業に対する導入策を何か考えていたらよいのではということか。

委員)

- ・環境マネジメントシステムを導入するということは、省エネ、省資源、廃棄物の削減、また、企業体質の改善の効果も言われている。企業の中でいろいろな教育を受けるわけである。
- ・教育を受けると同時に、自分達もその中で実践していくので、それが、家庭に持ち込まれるという風に思っている。
- ・学校も含め、一般市民への教育も大事であるが、一方では大人の半分は会社にいるわけであるので、会社で教育すれば家庭にも波及し、全体が良くなっていくのではないかと思う。

環境政策課長)

- ・地球温暖化の対策法の中で、特例市以上については、地域計画の策定が義務付けられてきている。
- ・今、鳥取市では、実践行動計画という市内部での取組をやっているが、鳥取市域内の排出削減という取組を今後検討していかななくてはならない。
- ・今後、企業にお願いすること、また市民にお願いすることが出てくるので、その中でどのような取組が必要かを検討する必要がある。今のお話もその中の1つの取組として検討していく必要があるのではないかと思っている。

委員)

- ・この部会の進め方を議論しておかないといけない。1ずつ議論していても市に対する提案を取りまとめることができるのか疑問である。

副部長)

- ・環境先進都市の実現というのは非常に幅広い。
- ・例えば、キーワードを5つぐらい出して、そこで意見交換するとか。

委員)

- ・環境というと、ごみやリサイクルだけの話でなく、都市環境についても含まれると思う。

副部長)

- ・テーマを絞るのがいいのかということもあるが、とりあえずキーワードをつくって骨組みをつくり、ごみの問題などあれば、それでは本日はごみの問題を議論しましょうかということで、進めていってはどうか。

委員)

- ・市民が取り組むことができるものが先決ではないかと思う。
- ・一人ひとりの自覚が、環境都市をつくる上での大きなキーワードになるように思う。

委員)

- ・進め方の話であるが、部長さんもおられるので、意思表示をしてから発言された方がよいのではないか。
- ・今企業のごみの話をしていただいたが、各家庭のごみの減量化の一環として、ゴミ袋が有料になった。その時に鳥取市の清掃審議会でも一応の目標数値が出されている。
- ・そこで一番問題なのは、家庭で出るごみの水切りである。
- ・量も減ってくるし、清掃工場でもかなりの重油を使って燃やしている。

- ・量を減らすということが、まず各家庭に与えられた使命ではないかと思う。
- ・まだ、目標値に達していないと思うので、どうしたら達成できるのかということになってくる。
- ・今、鳥取市は生ごみの処理機を貸し出している。ただ、利用度が少ないのではないか。
- ・主婦感覚とすると、処理機を使う際に電気が必要である。ごみを処理しながら電気を使うのはなんとなくもったいないような気がする。
- ・一番簡単なのはやっぱり堆肥に戻していくというやり方。それをどうしていくかということは、婦人団体等もあるが、今は公民館でもまちづくりをやっているのので、そういうところで、広げていく施策が必要でないかと思う。
- ・それともう一つ企業のごみが減っていないということが新聞に載っていた。
- ・ということは、企業に働いている人は、自分達はみんな家庭でごみの分別をしながら、企業では分別していない。あるいは企業独特のごみの種類があるということか。
- ・企業のごみの分別をどのようにしていくか。なんとか減らしていく形に持っていけないかと思う。
- ・ごみのペールがざる式であれば、水を落として、バイオ処理するような取組を進める方針もあっていいのではないかと思う。

環境下水道部次長)

- ・8次総で言えば、1人あたりのごみの排出量の22年度の目標が900グラム。今は20年度末で925グラムという状況である。
- ・ごみ袋有料化の1年後で、可燃ごみについては17.4%、プラスチックごみについては12.6%減量化できたが、まだ目標値に届かないという状況の中で、市民からごみの減量化のアイデアを募集したりした。その中では水切りが大事というような説明をさせていただいている。
- ・市報の中でも可燃ごみの半分近くは水分だというようなPRも行っているところであり、そのあたりもフォローしていかななくてはならないのかなと思っている。
- ・県でも次年度から生ごみを処理するというので、モデル地区を選定した補助制度も創設するというようなことも聞いている。
- ・本日の全体会の中でも説明させていただいた定住自立圏構想の中でも、1市4町が連携した生ごみの減量化というものも検討している。
- ・鳥取市でもモデル的に地区を選定し、生ごみの分別収集の取組を行おうとしている。
- ・この取組は、八頭町と智頭町でも行っており、新しいごみ処理場の規模を小さくするためにも、また、処理費用を少なくするためにも重要なことである。
- ・事業ごみについては、景気低迷もあり、数値的にはごみの量が減ってきているが、ごみの処理状況や減量化の取組などを把握・啓発するために、今年の春先から事業所訪問を行い始めたところである。

委員)

- ・ごみに関係することと言えば、なぜごみを出してはいけないかという教育と、ごみを出さない、なくすためにはどうすればいいかということ、後は個人レベルでは分からないような企業向けの大きな環境システムというもので、だいたい3本柱になるのではないか。

- ・皆さん個人個人が意見を持ってここにいらっしゃると思うので、45分程度ではなかなか議論できないと思う。
- ・そのような柱を何本か立てて、それに分かれて話をして、実際に知識が足りない部分とか、補う必要があれば、専門の方に聞いてというような進め方をした方がいいのではないかと。
- ・この会で何がしたいのかというと、こうした方がいいのではないかと意見をあげるということである。
- ・それぞれがやりたいこと、専門的な知識があるようなことを話をして、意見をあげないことには、順番に話をして意味がないのではないかと。
- ・どうやって時間を有効に使うかということを決めた方がいいのではないかと。

委員)

- ・まず自分が考えていることをレポートに書いて、それについて討議し、まとめをしていくということも1つの手ではないかと思う。

副部長)

- ・環境先進都市というのは幅が広いので、大きな1つのビジョンというか、こういったものにつなげていきたいというタイトルをつくるべきだと思う。
- ・そうすれば自ずとそこから枝分かれしていくのではないかと。
- ・例えば、魅力のある鳥取市をつくるためにというような大きな幹がないと、そこから環境の話はできないのではないかと。
- ・その上で、今日はごみの話をしましょうとか、次は景観条例の話をしたりとか、校庭緑地化の話をしましょうとか。そういったテーマを設けて、それに関係する担当部署の職員に来てもらい話をすると。そうしていった方が早いかもしれない。
- ・今日はごみの話がたくさん出たので、ごみの話でいいと思うが。

部長)

- ・今日はごみの話でいいが、レポートなどで皆さんに題を出していただいて、それを振り分けしてもらってというようなことをしないと全部やりきれないかもしれない。

委員)

- ・市役所はペーパーレスか。

環境下水道部次長)

- ・庁内では、できるだけペーパーレスでということを進めている。

委員)

- ・シュレッダーにかけたごみを入れるとトイレトペーパーになるという機械をつくったということがあった。今後いろいろなところで導入されていくのではないかと。

環境政策課長)

- ・市の場合は牛の敷きわらに利用している。

委員)

- ・他の都市では非常に進んでいるところもあり、生ごみの水切りをしたものだけを回収して、堆肥化しているところがあった。

・非常にいいことではあるが、なかなか実践が難しいということを感じた。

委員)

・今鳥取市ではごみの分別を何種類ぐらいに分けて行っているのか。

環境政策課長)

・鳥取市では、9種類13分類である。

委員)

・先進地では14種類24分類で分別しているところもある。

・市民も分類に協力し、そのためリサイクルもできる。その辺の認識を市民の啓発していくことが大事である。

副部長)

・地元でごみの当番をやっており、ごみの収集日や分類の啓発をしなくてはならない。

・不法投棄のこともやっており、不法投棄でよく出るのがトレーや弁当ガラである。

・トレーや弁当ガラを使用する業者の方で、例えば使用済のトレーや弁当ガラを持ってきてもらえば、いくら安くするとかするような商売がしてほしいと感じている。

・ホテルでも、歯ブラシやせっけんなどを使わなかったら、そのお金は森をつくる費用になりますよというような取組をしている。

・そういった意識を企業の中でも持っていつてもらいたいと思う。また、そういったものも行政としても投げかけてもらいたい。

環境下水道部次長)

・一般の家庭の可燃ごみの中でも、軽く洗ってもらいプラスチックに回してもらえばいいのになというようにごみも入っていることがある。

・そういう仕組みも大切なと思う。なかなか難しいと思うが。

委員)

・鳥取市も模範となる地域への表彰制度を設けてはどうか。

委員)

・指定地域というものをつくり、町内で団結してやってもらうとか。

副部長)

・男性の意識ももう少し必要かもしれない。たばこのポイ捨ても女性より男性の方が多い。

委員)

・鳥取などは地方都市なので、コンポストなどを安く出して普及させてはどうか。

環境下水道部次長)

・まさにそれは大切なことである。今、市の助成制度は、先ほどあった電気を使う生ごみ処理機のほか、コンポストも対象としている。

・ごみダイエットであるとか、市報、行政チャンネル等でもPRしているところである。

・生ごみの堆肥化については、智頭の方で生ごみを液肥化し、農家に利用してもらい、市立病院などではその農家で作った食材を給食に出しているというようなこともやっている。

- ・ただ、市でやっているのが液肥であり、かなりの量が出て、それをどうやって活用していくのが問題である。農業も化学肥料をという傾向もあり、そのような液肥をうまく農業に取り入れていただくというのは難しい問題である。

委員)

- ・下水道の汚泥はどのような処理をしていくか。

環境政策課長)

- ・下水汚泥については、施設内で焼却処理を行い、廃棄物としている。その中からリンなどを回収していくという動きはある。

環境下水道部次長)

- ・汲み取りであるとか、集落排水などの事業系の污水が入らないものについては、因幡コンポという肥料化を行っている。
- ・それと表彰制度という話があったが、事業所の方にそのような制度を設けて、そのような取組を紹介するような認定制度でもつくったらどうかということを今考えているところである。

委員)

- ・事業所のごみの話であるが、国際基準の ISO で、一時非常に盛り上がった。
- ・ただ、ISO はかなり厳しい。取得するのに専任職員が一人はいないとできない。
- ・そのため、ISO に取り組むためには、行政側の専門の方が出向いて指導してあげるなどの支援が必要。
- ・そうすると県がされている TEAS の方が有利ではないかと判断する企業もあるように聞いている。
- ・ただ、意識の問題は非常に大事である。
- ・企業のごみの処理はお金の問題であり、それさえクリアできれば、何でも捨てればいいという感覚が生まれてしまう。
- ・市民の方は有料袋でお金を払っているが、それでも 60 円というのは安いのではないかと思う。本当にもっと考えていくためには、もう少し高くてもいいのではないかと感じる。
- ・自分で処理する方法を見つけて、少しでもお金がかからないような意識にもっていかなければならないのではないか。

委員)

- ・海のごみもあなどれない状況である。海外のごみも多い。
- ・前はその処理に助成金が出ていたと思うが、ボランティアになったこともあり、地域の方の動きも鈍くなった気がする。

環境下水道部次長)

- ・合併前は総ごと等で、お茶代なども出ていたと聞いているが、合併後にそのようなものがなくなり、だんだんと熱が入らなくなったというようなことは聞いている。
- ・地域の方が集めていただいたごみは、支所なりにいったん集めてというようなことはさせていただいているが。

部会長)

- ・次回は1月20日ということであるが、項目を事務局から提案してもらい、それをチームで分けるなりして議論してはどうか。
- ・3チームだと1チームの人員が少ないので、2チームぐらいで分けて、ということで、次回以降整理させていただくということではいかがか。

委員)

- ・それは、テーマごとに分科会みたいなもので分かれて議論するというイメージか。
- ・それよりは、テーマをきちっと決めて、皆で議論する方がいいのではないか。他のたくさんの方の意見も聞きたい。

副部会長)

- ・どちらが良いかを今決めたらどうだろうか。どちらがよいか。

委員)

- ・いろんなテーマを皆さんに提示してもらって、その中から一番多いものを次回のテーマにするという方法もある。
- ・事務局から何テーマかあげてもらって、皆さんが議論したいテーマを選択することもできる。

事務局)

- ・こちらでカテゴリーを決めるのも難しいので、まずは皆さんの興味のある分野や、問題点など普段思われていることを箇条書きでいただけるとありがたい。

副部会長)

- ・全体会の時間はもったいない。やめることはできないか。

委員)

- ・ディスカッションの時間が短くて、報告を聞いている時間が長いのはもったいない気がする。

委員)

- ・部会の時間を延ばすことも可能

事務局)

- ・全体会の時間配分を調整したり、部会の時間を延ばしたりというようなことも検討させていただきたい。

副部会長)

- ・部会は2時間ぐらいはほしい。

事務局)

- ・まずは皆さんに御意見の方を照会させていただく。

以 上